

06
June

RESULTS JAPAN ANNUAL ACTIVITY REPORT



平成31年度
事業報告書

日本リザルツ 令和2年2月21日作成

2019 年 06 月 02 日

栄養セミナー（成長チャート編）

日本リザルツケニア事務所では、先月ウエストランズサブカウンティにある 8 つの小学校で身体測定を実施してきました。9～15 歳の 171 名分の計測結果を集計、分析し、新たに課題が見えてきました。ケニア政府が発行しているデータをもとに、身長と体重を年齢別に Normal（標準、もしくは過体重）、Mild（やや大体重）、Moderate（低体重）、Severe（深刻な栄養問題がある）の 4 段階に分けて評価した結果、Mild 以下の低体重の子どもが



33.2%、低身長の子どもの 32.3% もいることが分かりました。日本の小学生における痩身傾向児は、3.5% 未満であり、いかに多くの子どもが低体重の問題を抱えているかということが分かります。一方で、ローレル指数を指標に肥満、太り気味、標準、痩せ気味、痩せ過ぎの 5 段階で評価したところ、全体の 5.2% が太り気味以上であることも分かりました。カンゲミ地区を含めた 6 校で太り気味以上の子どもが見受けられたことから、スラム街でも肥満が問題になっていることが考えられます。こちらは合わせて取得した食事調査をもとに更に分析を進めたいと思います。ケニアには身体測定の習慣がないため、ほとんどの子どもにとって今回が初めての身体測定でした。身長、体重は健康状態を知る上で、また子どもの成長をはかる指標となります。学校の先生や子どもたち自身がその意義を感じ、身体測定の習慣が根付いたら良いなと思います。

栄研化学（株）のケニア訪問

日本リザルツはケニア・ナイロビ市のスラム街、カンゲミ地区で結核抑止アドボカシープロジェクトを外務省の協力のもと実施しています。2018 年 8 月、我々は、ケニアで初めて TB LAMP を導入し、結核患者の発見率が 2 倍になりました。

ケニアでは結核とみられる患者の診断率が低いことが問題になっています。TB LAMP をケニア全土に普及させ、見過ごされている結核患者さんを減らしたい！というこ



とで、栄研化学（株）の皆様がケニアにお越し下さり、ケニア保健省にTB LAMPのご説明を行っていただきました。ケニアの鈴木康裕医務技監こと Dr. Pacifica Onyancha（以下、パシフィカ博士）、Head Depaertmernt of Medical Services/ Previntive and Promotive Health が保健長官の代理として、栄研化学（株）にお会い下さり、LAMP 法の利点等をお聞きいただきました。実際にデモンストレーションをします。パシフィカ博士も LAMP があまりにも簡易でびっくりされていました。皆さんで記念撮影。パシフィカ博士も他の遺伝子検査より低コストで、今までより簡易に結核検査ができ、検査の精度も高い TB LAMP に高い関心を示してらっしゃいました。



ケニアのような結核高まん延国で LAMP が普及すれば、見過ごされる結核患者の減少にもつながります。日本リザルツもアフリカの結核根絶を様々な面から応援していきます。

2019 年 06 月 03 日

活動報告の配布作業をしながら勉強

日本リザルツを支援してくださっている皆様に最近の活動報告を郵送しました。ボランティアとして日本リザルツに参加するようになって日が浅いので、配布する活動報告を読みながら、スナノミ症、TB-LAMP など、少しずつ言葉を覚えている段階です。



2019 年 06 月 04 日

「令和飴」の金太郎本舗本店を訪問しました

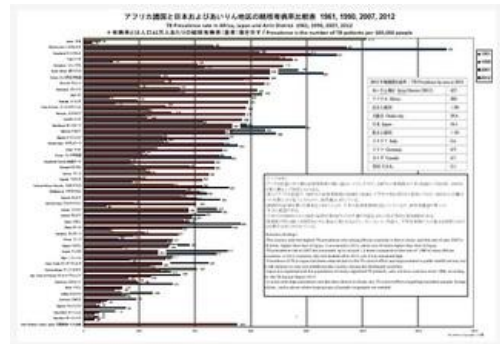
令和元年も早6月です。「令和飴」をご紹介いただいた五十鈴商事の柴田代表のご案内で、台東区にある（株）金太郎飴本店を訪問させていただきました。お忙しい中、同社代表の渡邊様から金太郎飴についてご説明をいただきました。同社は明治初期の創業とのことで130年以上の歴史があるとのこと。今回は、来る8月に横浜で開催される第7回アフリカ開発会議（TICAD 7）もありますので、外務省、JICAの皆様にも加わっていただきました。TICADでは、会議場の一角に設置される団体の展示コーナーで令和飴を紹介することで日本とアフリカとの友好親善の役割を果たすこともできるのではないかとといった意見が出るなど大変充実した会合となりました。これから出展について検討が始まります。当日が楽しみです。なお、お店には令和飴のほか、桜飴など季節色を反映した飴や、はたまたまトランプ大統領飴など時代を反映する飴などバラエティに富んだ商品も多数あり、目を楽しませてくれました。帰り際、柴田代表が奉納品としての令和飴を見つけられ、我々に紹介していただくきっかけとなった三島神社をお参りしてきました。今日は金太郎飴のお蔭で心が和む楽しいひとときを過ごすことができました。本当に有難うございました。



アドボカシー資料

アフリカ諸国と日本の結核有病率がそれぞれどのように変化してきているかを比較する資料を更新しました。アフリカは、国によって大きく減っている国、一旦減ったのち再び増加している国、増加の一方の国と様々ですが、全体としては依然として高い有病率となっています。

これまでの 1990 年、2007 年のデータに 2012 年のデータを追加したのですが、棒グラフの数が増えた分見やすくすることに難しさを覚えました。今年の 10 月にグローバルファンドの増資会合が予定されている中、武田薬品工業が民間企業として最初に寄付（5 年間で 10 億円）を表明したというニュースが報じられていますが、結核対策のモメンタムを増大させるため、資料作りを含めたアドボカシー活動に力を入れていきます。



2019 年 06 月 05 日

河野外務大臣の公開講座

6 月 3 日に河野太郎外務大臣が慶應義塾大学で行った公開講座について、同大学のウェブサイトで報じられています。

河野外務大臣は、国際連帯税を含めた革新的資金調達について発信を続けてくださっており、今年の 7 月 24 日に開催予定の「(仮称) SDGs 達成のための国際連帯税を実現するシンポジウム 2019」において、昨年に続いてご出席、ご発言をいただく方向で進めています。

今年のシンポジウムでは、若い力である学生さんをたくさん巻き込みたいと考えています。今回のようなご縁から、慶應義塾大学の学生さんも積極的なご参加をいただけると幸いです。写真は昨年 7 月 26 日に開催した「SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」の開催報告書です。



2019 年 06 月 06 日

栄養セミナー（食事調査編）

日本リザルツケニア事務所では、先月ウエストランズサブカウンティにある 8 つの小学校で栄養セミナーを実施してきました。セミナーの中では、9 歳～15 歳の 171 名分の食事調査を集計しました。これを分析したところ、子どもたちの食事の実態が見えてきました。

ケニアでは炭水化物、タンパク質、ビタミン&ミネラルが 3 大栄養素と言われています。

今回は子どもたちに前日食べたものを 3 大栄養素に分けて

記入してもらい、食事のバランスを調査しました。3 大栄養

素のうち、炭水化物は全員摂れていました。しかし、残りの

タンパク質、ビタミン&ミネラルについては、大きくば

らつきがありました。比率にすると、1 日の食事の平均は炭

水化物：タンパク質：ビタミン&ミネラル＝5：3：2 でした。

炭水化物については、パン、トウモロコシ、ウガリ、ご飯など、さまざまな食材を摂取し

ていた一方で、タンパク質、ビタミン&ミネラルについては牛乳や豆、ほうれん草など食

材が限られていた上、全く摂取できていない子どももいました。これらの要因は、環境や経済状況が背景にあるかもしれないので、引き続き分析を進めていきたいと思います。

また、食事調査の結果と身体測定の結果を照らし合わせてみたところ、標準値の子どもと低体重、低身長の子どもの食事内容には、大きな差が見られないことが分かりました。つまり、1 回あたりの食事の量が、体の成長に影響していることが考えられます。

9 月に第 2 回食事調査を実施する予定なので、次回は食事の量についても調査し、より正確な実態を把握できるよう努めたいと思います。



2019 年 06 月 09 日

多目的ホールの建設開始

日本リザルツは外務省の支援のもと、ケニア・ナイロビ市のスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。

皆さん、長らくお待ちしました。

遂に多目的ホールの建設が始まりました。



結核検査所の建築でお世話になったムタイさん（左端）と1年ぶりの再会です。筆者も現場監督復帰です。ドライバーのジェーモーさん（真ん中）もやる気満々です。

本日は建設予定地にある倉庫の取り壊し作業をしました。

中にあるヘルスセンターの資材を運び出します。

たまたま、ヘルスセンター内で保健指導を受けていた子どもたちが片付けを手伝ってくれました。

働きもの子どもたちのお陰であつという間に倉庫内が片付きました。

物資はまだ使えるものばかり。

ヘルスセンターの職員の方のご指導のもと、適切な場所に移動させました。

快くお手伝いをしてくれた、子どもたち、ヘルスセンターの皆さん、そして、ジェーモーさんに感謝です！

そして、倉庫の解体が始まりました。

1つ1つ部品を取り除き、使えるものは多目的ホールの建設に再利用します。

ムタイさんがエンジニアに丁寧に指導しています。土曜日にも関わらず、作業を進めて下さいました。

この作業は週明けまで続きます。倉庫を解体した後、多目的ホールの建設に向けた地盤工事が始まります。

この施設がカンゲミ地区の皆さんの憩いの場、且つ学びの場になることを楽しみにしています。

そして、安全第一で工事を進めていきます。



2019 年 06 月 12 日

食品ロス

最近、新聞で「食品ロス」という文字が目につきます。日本では年間約 1,800 万トンの食品が廃棄され、このうち食べられるのに廃棄される食品ロスは 500 万～800 万トンに及ぶそうです。慢性的な貧困、多発する紛争、そして、頻発する自然災害が飢餓を引き起こし、世界で 9 人に 1 人が飢えに苦しんでいるそうです。食べ物を残すたびに罪悪感を覚えてしまいます。

2019 年 06 月 13 日

アフリカ健康構想第 1 回民間会合

6 月 5 日（水）に、日本リザルツにおいてアフリカで事業を行っている企業とアフリカ進出を考えている企業が集まって会合を行いました。その中では、官民連携を進める上でどのように企業側から政府に要望等の働きかけをするのが良いかということについての共通認識が形成されました。様々な分野の企業が互いに情報を共有して協力できるところは協力しながら、複数企業のパッケージとして事業を形成し、日本政府に売り込んでもらうという方針が確認されました。これからも第 2 回、第 3 回と開催していく予定で、日本リザルツとしても、日本の優れた製品や人材がアフリカで活躍できるよう後押ししていきたいと思います。



2019 年 06 月 14 日

国際連帯税議員連盟総会

本日、参議院議員会館において開催された、国際連帯税の創設を求める議員連盟 2019 年度第 1 回総会に出席してきました。その中で、外務省から国内外の状況、G20 大阪会合及び

革新的資金調達に関するリーディング・グループ会合についてご報告があり、議員連盟からは、G20 におけるゴールは何で、そのためにいつ、誰が、どのような形で国際連帯税について発言、提案をするかということについて、スケジュールを含めて具体的な道筋を描いていかないと進まないという意見が出されました。

代表の白須からは、今年の7月24日（水）に開催するシンポジウムでは若い学生さんの参加を去年よりさらに拡大して、全体の3分の1以上にしたいこと及び9月にニューヨーク国連本部で開催される SDGs サミットに派遣する学生さんを募っていることをお話し、衛藤会長に早稲田大学へのお声がけについてお願いしたところ、早稲田大学の総長が早稲田の国際化を非常に強く打ち出しているということで、お力添えをいただけるという心強いお答えをいただきました。

シンポジウムの開催を含め、国際連帯税の創設を目指す取組みを後押しできるよう頑張ります。



2019年06月15日

LIXIL の SATO 戦略拡大へ

元日本リザルツインターンの春日さんから、興味深いニュースを共有していただきました。日本リザルツとお付き合いのある LIXIL が製造している SATO に関して、SATO の事業がバングラディッシュで黒字化したため、さらに事業を拡大することになってそうです。このため、LIXIL は SATO という部署を新たに設け、人員も倍増させるということです。日本リザルツもケニアの結核抑止プロジェクトの一環として、現在、ウエストランズサブカウンティの8つの小学校に SATO が入ったトイレ・手洗い場を建設しています。LIXIL の SATO のような日本の知見を活かして、どんどんトイレ革命が進んでいくといいですね。



カンゲミヘルスセンター清掃活動

日本リザルツケニア事務所では、カンゲミ地区で公衆衛生の改善と清掃活動の啓発活動を行っています。

私たちは毎日カンゲミヘルスセンターを訪問して、施設内の清掃を行っています。

ドライバーのジェーモーさんやボランティアの方も一緒に清掃してくれました。

最近、ほんの少しですが、ごみが減ったような気がします。清掃活動の輪が広がっていくよう根気強く続けていきます。



平和と健康の会（JAHP）の仲間づくりに ご協力お願いします！

今週から（一社）平和と健康の会（Japan Association for Health and Peace:JAHP）の立ち上げのための会員募集活動、要は「仲間づくり」を本格化しています。先の結核勉強会の席では、理事長の浅野茂隆先生から、「平和と健康の会の理事長も務めています」とのご発言を頂きました。実際のところ、出席者には「平和と健康の会って何?」、という雰囲気もあり、これではいけないと思いました。

そして今しかない、最大のチャンス到来と感じた理由は、アフリカ健康構想が民間レベルで動き出したからです(6月13日のブログ参照)。第一回会合の参加者は、アフリカへの進出実績のある、あるいは検討されている先駆的な企業ばかりで、そのカバレッジも業種横断です。異なる業種の企業がアフリカ進出に関する共通課題の解決を共有し官の支援もお願いする、そしてアフリカの健康の達成、「誰一人取り残さない」というSDGsに向けて頑張ろう、という熱い気持ちが少数ながらヒシヒシと伝わってきました。

因みに、食品産業系の官民プラットフォームには、前職の食品産業センター時代に筆者が立ち上げに関わった栄養改善事業推進プラットフォーム（NJPPP：Nutrition Japan Public

Private Platform)があり、設立3年を迎えています。こちらにもアフリカにも目を向き始めているようです。民間会合の熱い気持ちを、アフリカには関心をもつがまだまだという企業に直接伝えたい、語りかけたいということです。筆者がポリオの議連会合、GGG+フォーラム等の集客で伝えてきた熱い気持ちを JAHF でも、ということもできます。今のところ語りかけた企業は、キッコーマン、TOTO、タニタ、サラヤ、味の素、大塚製薬、富士フイルム、五十鈴商事の8社で、栄養、衛生、製薬、医療機器、商社、大企業から小企業まで様々の多様な企業集団です。どこも、熱い反応を示してくれている企業ばかりです。訪問先のスナップもお楽しみください。平和と健康の溢れる素晴らしい世界を目指すため、仲間づくりに協力をお願いします。



2019年06月16日

工事がどんどん進んでいます (2019年バージョン)

日本リザルツはケニア・ナイロビ市のスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。最終年度の今期プロジェクトでは、

①カンゲミヘルスセンターを使いやすくするために、多目的ホールの建設と通路の舗装を実施する

②ウエストランズカウンティの8つの公立学校にトイレ・手洗い場を設置する

上記の2つの施設整備を実施しています。

建設が本格的に始まり、筆者も2回目の現場監督に復帰しました。今日はその様子を写真でお伝えします。

①多目的ホール

昨年の結核検査所に引き続き、ムタイさんとのタッグで、猛スピードで掘削工事が進んでいます。



7月末までに工事を終わらせるため、人員を増強していただいています。なんと15人態勢です。

掘削作業は3日間で終了しました。

ここにコンクリートを流し込み地盤を固め、基礎工事に入ります。



②トイレ建設

こちらはすでに基礎工事が終わり、施設の建設が始まっています。

安全第一。ヘルメット防護服の着用を徹底しています。
セメントと石をつなぎ合わせて、施設を作っていきます。

無事壁ができあがりました。
なお、安全のため、周囲はきちんと覆っています。



7月末には双方の施設の工事が完了する予定です。安全第一で、工事が進められるよう頑張ります。

2019年06月18日

本日の清掃@カンゲミヘルスセンター

日本リザルツケニア事務所では、カンゲミ地区で公衆衛生の改善のために、清掃活動を行

っています。

本日もカンゲミヘルスセンターで清掃を行ってきました。
ボランティア、CHV、警察官と一緒に、駐車場を重点的に
ごみ拾いしました。

ごみの内容はお菓子の袋や飴などの包みが最も多く、続いて、
スナックとしてよく食べられているトウモロコシの芯、ペッ
トボトルの容器などが目につきます。

ごみ拾いをしているそばから、ごみを捨てていく人もいます
が、たまに1つ2つごみを拾うのを手伝ってくれる人がいる
と温かい気持ちになります。

コミュニティと毎月一緒に行っている清掃活動と合わせて、
住民が参加してくれるように、私たちも活動を続けていきま
す。



SDGs 達成のための国際連帯税を実現する シンポジウム 2019

7月24日（水）13:30～17:00、衆議院第一議員会館国際会議室において「SDGs 達成のた
めの国際連帯税を実現するシンポジウム 2019」が開催されます。

皆様のご参加をお待ちしております。

【ご案内】SDGs 達成のための国際連帯税を実現するシンポジウム 2019

●呼びかけ

・2015 年国連は持続可能な開発目標（SDGs）を採択しました。それは世界の貧困、持続
可能な経済、気候変動など山積する地球規模課題への対応を、「誰一人取り残さない」とい
う理念のもとに達成しようというものです。しかし、SDGs 達成のためには、毎年2兆5000
億ドルもの資金ギャップがあると言われています。これを克服するための有効な方法が国

際連帯税です。

・国際連帯税とは、グローバリゼーションによって利益を得ている経済活動に広く薄く課税し、その税収を SDGs など地球規模課題に使うという税システムです。国際航空券税や金融取引税などがそれです。今日国際連帯税のイニシアチブを国の内外で振っているのが、河野太郎外務大臣です。

・本年 9 月には「国連第 1 回 SDG サミット」が開催され、首脳レベルで実施状況をレビューする年ですが、開発資金についても議論されます。私たちはこのサミットに向け、国際連帯税実施の機運を高めるためにシンポジウムを開催します。

・本シンポジウムの特徴は、次の 2 つです。ひとつは、金子宏・東京大学名誉教授の昨年の文化勲章受章記念という性格をもちます。もうひとつは、「学生たちとの対話」というセッションを設け、次代を担う若者たちの SDGs 活動や国際連帯税活動への参加を促していきます。

●日時・会場

・日 時：7 月 2 4 日（水） 1 3 時 3 0 分～1 7 時 0 0 分 （終了後、懇親会を行います）

・会 場：衆議院第一議員会館国際会議室

●主催・共催・後援

・共催：グローバル連帯税フォーラム、国際連帯税アドバイザー・チーム

・後援：国際連帯税創設を求める議員連盟、日本リザルツ、外務省（要請中）ほか

●プログラム（予定）

第一部：あいさつ&講演

1）挨拶：衛藤征士郎・国際連帯税創設を求める議員連盟会長（衆議院議員）

ローラン・ピック フランス駐日大使（要請中）

2）文化勲章受章・記念講演：金子 宏・東京大学名誉教授

3）講演：「なぜ世界は国際連帯税を求めるのか～SDGs と国際連帯税～」(仮題)

上村雄彦・横浜市立大学教授

第二部：学生たちとの対話

第三部：パネル討論「テーマ：SDGs 達成のための新しい資金の使途と提言」(仮題)

ー国際機関、感染症患者代表、栄養／感染症分野、気候変動分野、労働組合・NGO から発言

第四部：宣言文採択

2019年06月20日

サンキューセミナーとシンポジウム集客作業

既にご案内のブログがアップされていますが、7月に開催される2件のセミナーとシンポジウムの為、今週は職員のみならずボランティアも交えて集客作業に追われています。メールだけのお知らせでは見落とされることもありますので、メール送付後に確認の電話を差し上げています。これが、なかなか時間がかかります。なるべく多くの皆様にお知らせできるようにスタッフ総出で頑張っています。沢山の方々にお越しいただきたいと思います。

サンキューセミナー

7月5日に「国際保健・理論と実務 ～抗生物質と人間、世界の保健政策～」と題して、次の通りサンキューセミナーを開催します。

サンキューセミナー「国際保健・理論と実務 ～抗生物質と人間、世界の保健政策～」

日時：2019年7月5日（金） 18:00～21:00

※セミナー終了後に簡単な懇親会を予定しています。

場所：日本リザルツ事務所 東京都千代田区霞が関 3-6-14
三久ビル 503

講話：長崎大学熱帯医学研究所 山本太郎教授

【抗生物質と感染症、そして人類】

国際医療研究センター 井上肇国際医療協力局長

【世界の保健政策と日本】



毎回ご好評をいただいておりますこのセミナー、
どのようなお話を聞けるか、主催者側ではありますが楽しみです。

2019年06月21日

カンゲミヘルスセンター清掃、視察

現在ケニア滞在中の白須代表と共に、6/19(水)にカンゲミヘルスセンターの清掃、視察を行

ってきました。

清掃は、いつも手伝ってくれるドライバーのジェーモーや警察官のロティッチ、また、センター長のシェムやその他スタッフがゴミ拾いやモップ掛けを手伝ってくれました。

お陰で表はだいぶきれいになりました。

人目につきにくいところほどゴミが溜まりやすく、植え込みや建物と壁の間などはまだまだゴミが散乱していたので、翌日その部分だけ集中的に清掃してきました。

小さい子どもも、診察中のお母さんを待っている間、手伝ってくれています。



また、多目的ホールの建設も、7月末の完成に向けて順調に進んでいる様子でした。

きれいに、新しく、変わっていくヘルスセンターの今後がとても楽しみです。

2019 年 06 月 22 日

慶応大学講義「河野太郎，ODA を語る」 ＝あわせて国際連帯税も語る

去る 6 月 3 日、慶應大学において河野太郎外務大臣が『河野太郎，ODA を語る』と題特別講義を行いました。日本の ODA 政策全般について語っていますが、なぜ ODA を行うのかについて、3 点挙げています。これがとても説得的ですね。縮めていえば、①とにかくものすごく困っている人が（地球上に）いること、②かつて貧しかった日本が受けたことの「恩返し」であること、③「情けは人のためならず」で巡り



特別講義を行う河野外務大臣
（外務省 HP より）

巡って日本に利益をもたらすこと、の 3 点です。しかし、途上国支援につき SDGs 達成の観点からみると、圧倒的に足りない資金という現実が見えてきます。そこで河野太郎は次のように述べます。SDGs を達成するためには年間 2.5 兆ドルもの資金が不足しているということが一番問題になっています。ODA 予算を倍にしても、SDGs の資金ギャップを埋めることは到底できません。今、私が色々な会議で申し上げていることは、グローバリゼーションの光が当たっている場所から、その陰になってしまった場所に手を差し伸べる必要がある、きちんと資金を回す必要があるということです。私は国際連帯税と言っていますが、例えば莫大な為替取引に 0.0001% くらいの国際連帯税を掛けさせてもらい、その税収を国際機関に直接入れ、その国際機関が緊急の人道支援を行うという提案をしており、多くの国から賛同を得ています。日本は今年、このような新しい方法で資金を捻出することについて議論するための国際的なグループである「開発のための革新的資金調達リーディング・グループ」の議長国として、国際社会における議論をリードしていきます。また、外務省にこの課題について議論してもらうための有識者懇談会を立ち上げて、緻密な議論を行いたいと考えています。

今週の業務から（集客と会員募集）

今週は 7 月の 2 件のイベントを前に集客を行いました。ボランティアの皆さんも集まる日は 4 人体制で集中的に電話勧誘を行いました。チームプレーで行う集客作業、集中力が一気に高まります。学生時代のボート部の頑張りに似ています。結果が出れば「おめでとう！」

と言って互いに励ましあいます。同時進行で、「平和と健康の会」への会員募集も行っています。今週は、「アフリカ健康構想民間会合」に参加された企業をメインターゲットとして取り組みました。メンバーの中には、アフリカでの健康構想に向けたプロジェクトを具体化するプランを既に持っているメンバーもおられます。その企業にとってアフリカ健康構想は既に構想ではなくプロジェクト、真剣勝負なのです。次の会議は頑張りますと決意表明されていました。素晴らしいです。他人事でなく自分事なので熱意が伝わってきます。こちらもちょうとしたヤル気のあるメンバーにとって使い勝手のよい会になるべきだと考えているので両者の思惑は一致します。会員になってくれそうだと期待が高まります。他方で、定款の一字一句質問攻めの企業もあります。こちらの説明が足りずにヒヤヒヤすることもあります。最後に「総論賛成です」と言ってくれて正直嬉しかったです。現役時代の予算説明、議員説明の厳しさを思い出しました。集客のように直ぐには結果は得られませんが、こちらの気持ちが伝われば入会につながると信じて、引き続き作業に勤しみたいと思います。常々励ましの言葉を頂いている浅野理事長がついていてくれると思うと元気百倍です。

2019年06月23日

どーらのケニア珍道中

今週は霞ヶ関が静かだ... そうです。霞ヶ関の魔法使いどーらこと白須が、6月16日から、ケニア・ナイロビ滞在中です。今回でなんと11回目の訪問です。早朝から夜遅くまで精力的に活動を行いました。工事現場の皆さんと記念写真。多目的ホールの建設が順調に進んでいます。

現場主義のどーら。自ら建設の進み具合をチェックします。今回、必需品の蚊取り線香を忘れてしまったどーら。1プッシュで24時間効くという日本の虫除けスプレーで、蚊を撃退しました。その効果にどーらもびっくりしていました。こうした良い製品がアフリカで普及し、マラリア抑止につながるといいですね。



ウエストランズサブカウンティ、ナイロビアアッセンブリーの皆さんと。仲良しのアズマ博士には、彼女の大好物のアンパンをお土産に渡していました。アズマ博士も大変嬉しそうでした。怒涛のスケジュールをこなしたどーらは、24 日に帰国予定です。



2019 年 06 月 24 日

清田保健局長の著書

日本リザルツは、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）のキャンペーン事務局をしています。その UNRWA の清田明宏保健局長による著書、「天井のない監獄 ガザの声を聴け!」（集英社、2019 年 5 月 17 日発行）が、BOOK ウォッチと言うサイトで紹介されていました。結構な長さの文で紹介されていて、関心と呼ぶ紹介文だと感じました。

この本により、一人でも多くの方がパレスチナ難民の置かれた状況について知り、考えるきっかけとなってくれることを願います。

2019 年 06 月 25 日

華麗なるカレー

霞が関の魔法使いことどーらは 6 月 16 日から 23 日まで、ケニアのナイロビに滞在していました。最終日、日本食が恋しくなったどーらは、オフィスのあるホテルのシェフに頼んで日本のカレーを作ってもらうことにしました。

豚の骨付きばら肉で出汁を取り、現地の野菜を入れた特製カレーです。

野菜は現地でも手が入りやすい、ほうれん草、人参、じゃがいも、玉ねぎ、そしてグリーンピースが入っていました。

どーらが元気よく帰路につけるよう、ほうれん草たっぷりにしてもらいました。



どーらも嬉しそう！ケニアにある野菜とお肉をぐつぐつ煮て、日本のカレールーを入れただけなのに、きちんと日本と同じ味のカレーができていました。大鍋に一杯作ったので、コックさんやホテルの皆さんにも食べていただいたところ、非常に美味しかったとのことでした。何よりお野菜を大量に入れたので、栄養価も非常に高くできました。ケニアで出てくるカレーは本来もっとスパイシーなものなのですが、日本のカレーも大好評でした。もしかしたら、日本の国民食として世界に広がる日が来るかもしれないですね。



2019年06月26日

体重計の設置

日本リザルツケニア事務所では、6/25（火）～6/27（木）にかけてウエストランズサブカウンティ内の8つの小学校を訪問し、タニタの体重計を設置しています。

まず先生たちに計測方法を教えました。
中にはデジタル式の体重計を初めて見る方もいて、喜ばれる様子にこちらも嬉しくなりました。

この後、子どもたちの体重を計測し、先月の結果と今月の結果を比較しました。子どもたちは体重の変化に興味深く見ていました。

運転手のジェーモーさん、警察官のデニスさん、ボランティアのカルビンさんも手伝ってくれました。

先月から始まった子どもたちの体重計測は、私たちが9月



までフォローアップします。その後は学校の先生に計測を継続して行ってもらい、子どもたちの健康管理に役立ててもらおう予定です。

2019年06月27日

武見敬三参議院議員が WHO UHC の親善大使に！

武見敬三参議院議員の世界保健機関(WHO)ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)親善大使の就任発表会が今朝、ホテルニューオータニ東京で催され、白須が出席いたしました。テドロス WHO 事務局長や日本財団の笹川会長も出席されており、白須はお二人とも親しくお話をさせて頂いたそうです。7月5日(金)18時-21時に開催されるサンキューセミナーで講話していただく国立国際医療研究センター(NCGM)の井上肇企画戦略局長も出席されており、白須から当日は宜しくお願い致しますとご挨拶をいたしました。写真は左から武見親善大使、テドロス事務局長、麻生大臣
追記：インターネットニュースでも報じられていました。

MEDIFAX Web：自民・武見氏が WHO 親善大使に就任 UHC 推進で

Devdiscourse：Keizo Takemi appointed as WHO Goodwill Ambassador for Universal Health Coverage



プラスチックゴミは価値ある資源に

オランダのアムステルダムでプラスチックゴミを収集する運河ツアーのニュースがありました。拾い集めたプラスチックゴミで一杯になった袋をカメラに向かって見せているツアーに参加した人々の笑顔が印象的でした。そのプラスチックゴミからデザイナーとコラボした高級家具、時計、サングラスが作られているそうです。プラスチックはゴミではなく、価値ある資源となりつつあるようです。

企業訪問で都内一周

今日は朝から平和と健康の会の会員募集のため企業回りの一日となりました。東京駅前の塩野義製薬をスタートに、大崎駅前のシスメックス、渋谷道玄坂の日本ニーム協会、茗荷谷の日本ビーシージー、最後に神田保町のヤンセン・ファーマ（ジョンソン・エンド・ジョンソン）、そして大手町経由で東京駅にたどり着きました。5か所だけでしたが一日仕事となりました。理由は、道に迷うことが多かったからです。特に大崎の新ビジネス街と喧騒の渋谷の道玄坂界限ではつい圧倒されてキョロキョロしてしまいました。

塩野義製薬、日本ビーシージー社でお会いする方々には初めてお会いすることからかなり緊張しました。しかし話が始めると緊張もほぐれたのか、時間が経つのも忘れるほどでした。ここでも最後は浅野理事長の話になりました。日本ビーシージーの下村博士から浅野先生の研究内容について専門的な知識をご教示いただきましたが、免疫学の知識が乏しい筆者にはやや難しかったようです。自分の専門に拘らず勉強が必要です。一日の業務を終えた頃には爽やかな風も吹き始めていました。明日は食品産業センターでのNJPPP(栄養改善事業推進プラットフォーム)の委員会です。食品産業一色の集まりですが、健康がテーマに上ることを楽しみにしています。企業回りもスタートしたばかり。「継続は力なり」です。頑張っていきましょう！！

2019年06月28日

東京事務所オフショット

たまにはということで、東京事務所の面々で撮った写真から一部をご紹介します。こんな感じでやっています。



2019 年 06 月 29 日

イギリスもグローバルファンドの拠出発表

日本が先日グローバルファンドに対し、今後 3 年間で 8.4 億ドル（約 910 億円）の拠出を行うことを発表しました。日本に続き、イギリスもグローバルファンドへの拠出を発表しました。3 年間で 14 億ポンド（約 1,918 億円）の拠出を行うということです。

14 億ポンドのうち 2 億ポンドは特にマラリアの抑止に焦点をあてて使われるそうです。

今後も増資会議に向けて、各国の動きを注視していきたいと思います。

【速報】 G 2 0 サミットで安倍総理が 「革新的資金調達」に言及！

G 2 0 大阪サミットの 2 日目、午前 10 時 30 分過ぎからはじまった「不平等の解消と包摂的かつ持続可能な世界の実現」を議題とした第 3 セッションが BS 関係テレビで中継されていて、冒頭提案文書を読み上げた安倍総理は最後に次のように言及しました。「…革新的資金調達に関する国際社会の議論を我が国はリードします」、と。聞き逃した「…」の部分は「SDGs 達成に必要な資金（または開発資金）を確保するため」だと思いますが、ともあれ総理が革新的資金調達に言及したのはこれが最初です。



G 2 0 大阪サミット(外務省 HP より)

伏線はありました。ひとつは、6 月 26 日に来日したマクロン・フランス大統領との間で結ばれた『特別なパートナーシップ』の下で両国間に新たな地平を開く日仏協力のロードマップ（2019－2023 年）」です。

それには「21- 両国は、それぞれが議長国を務める G 2 0 及び G 7 の連携に基づき、G 2 0 大阪サミット及び G 7 ビアリッツ・サミットの結果の実施に努め、以下を決定する。…開発のための革新的資金調達に関するリーディング・グループの議長国を日本が務めることを活用しつつ、開発のための革新的資金調達の議論の先頭に立つこと」とあります。

もうひとつは、6 月 21 日に開催された「SDGs 推進本部会合（第 7 回）」です。ここでは「拡大版 SDGs アクションプラン 2019」が決定されたのですが、ようやくプランの中「SDGs 達成のための革新的資金調達」の項が設けられました。次のように言及しています。

「この（SDGs 達成のための）資金ギャップを克服するためには、革新的資金調達の方法を考える必要がある。国際社会において様々な方法が検討される中、日本は『開発のための革新的資金調達リーディング・グループ』議長国として国際社会の議論をリードする（以下、省略）」と。